

令和 5 年度授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名、片仮名、漢字を正しく書き、文や文章の中で活用する力。 ・資料を活用するなどして、自分の考えを筋道の通った文章となるように全体の構成を考えて書く力。 ・話の内容が明確になるように話の構成を考え、自分の考えをまとめて話したり、相手の意見を聞いて考えを広げたりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も、全体の習得率は5～7割となっており、個人差が大きい。 ・文を読んで大体の内容は理解できるが、問題に沿って言葉を抜き出せなかったり、自己解釈が入って正確にまとめられなかったりする。 ・特定の児童だけが発表をしてしまったり、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたりする力の課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間やモジュールの時間、家庭学習を活用して、平仮名、片仮名、漢字を書きとる練習をし、定着を図る。 ・文型を提示し、理由や具体例を入れたり資料を活用したりしながら自分の考えをまとめる練習を重ねる。また、スクールタクトを用いて共有することで表現方法の幅を広げる。 ・話し合いの目的や方法、相手を明確に示して指導する。教師による積極的なモデリングを行う。他教科との連携を図りながら話し合い活動を取り上げた単元の設定をし、話し合い活動の年間回数を保証する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取ったことや調べたことを、まとめ表現する力。 ・社会的事象の特色や相互の関連を多面的多角的に考察し、考えたことを説明する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料やインターネットから情報を収集することはできるが、それを活用して伝える力や深める力には課題がある。 ・一つの資料の読み取りはよくできるが、複数の資料を関連付けて読み取る力はまだ足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でノートにまとめるだけでなく、スクールタクトを使ったり、班で考えをまとめたりすることで、友達の考えを参考にしながら表現できるようにする。 ・注目するポイントやヒントとなる部分について伝え、読み取りやすくする。 ・ペアやトリオなどの少人数で伝え合う活動を充実させる。 ・学級で話し合ったことが見えるように、板書を工夫し、まとめの学習では、自分の考えを深められたことが分かるようにノートの書き方を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などについて基礎的・基本的な概念や性質を理解し、日常の事象を数理的に処理する力。 ・見通しをもち筋道を立てて考察する力。 ・数学的な表現を用いて 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや図形の意味や性質、構成要素の理解が十分でない。 ・日時や場所等の観点などからデータを正確に分類整理することが十分でない。 ・計算の意味などに着目し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・レディネステスト等により、算数少人数クラスを展開する。基礎基本の習得が必要なクラスと発展的な内容や自分たちで学習を進めるクラスと指導体制の工夫を行う。学習内容の定着を図れるよう習熟時間の確保を行う。 ・効率のよい処理の仕方や工夫について、体験的に

	事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力。	これまでの学習と関連させたり、発展的に考察したりすることが難しい。	学習しそのよさを友達と共有させる。 ・これまでの学習と関連させて考えられるよう、課題提示の工夫を行い、自分の考えを表現させるペアやグループで話し合い活動を通して、よりよい考えや表現方法に気付くようにする。 ・算数で使用する言葉を精選し、「算数言葉」として児童が系統的に学習を進められるようにする。
--	------------------------------------	-----------------------------------	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察および実験の技能 ・理科的な思考力・判断力・表現力 ・理科用語の知識理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察したものを適切に表現したり、実験を正しく行ったりすることができない。 ・問題作り～結論を導くまでの思考の流れが定着しておらず、思考力・判断力・表現力が十分ではない。 ・用語を先行学習して知っている児童が、内容を理解していない。そのため、授業での新出用語との混在をしようことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察する際のポイントや実験手順をノートにまとめながら全体で確認する。 ・問題作りにおいて、児童が解決可能だと見通しのもてる問題を立てられるように事象提示を工夫し、既習事項や身近な経験と問題を関係づけながら仮説を立てられるようにする。実験から考察についても、常に問題や仮説と比較させながら考えさせることで思考力の向上を図る。考察が難しい児童には記述する際の話型を示す。 ・言葉を正しく使って説明したりまとめたりする時間をとり、知識の定着を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に、朝顔やトマトなどの観察に取り組む活動を通して、植物にいたし身を持ち、大切にできる態度。 ・学校の施設の様子や人々と関わっていることが分かり、楽しく安心して学校生活を送ろうとする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察したことなどを言葉にして友達に表現することが十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードにまとめる際には、ポイントを示し、五感を働かせて観察させる。 ・観察カードの形式は文章部分を3行→4行→5行とスモールステップで増やし、表現力の向上を図る。 ・ペアトークやグループ学習などを取り入れて、友達と伝え合う力を段階的に高めていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図を生かして表現したり、聴き取り感じ取ったことを言葉などで表現したりできる。 ・他者との交流を通して自分の考えを広げ、深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気づきから学習を進展させ、主体的な活動ができなかった。 ・楽曲から感じた思いを、表現に生かすことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や既習事項を基に、児童が本時のめあてをもち、学習方法を理解し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ・児童同士の対話、教員との対話、作詞者や作曲家などの考えを手掛かりして考える活動を取り入れる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方について考える。 ・創造的に発想や構想をしたり、作品に対する見方や感じ方を深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品や友達の作品、物語や写真など創造的に発想したり構想したりする材料と深く触れ合い、自身の発想や構想を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や音といった絵画要素のないものから発想を膨らませる授業に取り組む。 ・児童が互いの作品を見合える環境を作り、アイデアを得られやすくする。 ・題材導入時の交流を大切にし、発想のプロセスを共有させる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や裁縫の基礎的な知識、技能の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力しながら安全に効率よく調理することに課題がある。 ・裁縫が得意な児童や苦手な児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理計画を立てる時間を十分にとる。 ・調理や裁縫の道具を使い練習する時間を定期的にとり、習熟を図る。 ・実技の際は担任の先生や栄養教諭に協力を仰ぎ、安全に活動できるようできるだけ多くの教員で指導する。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、 学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・その特性に応じた各種運動の行い方や健康・安全について理解する力と、基本的な動きの技能。 ・運動や健康について自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力。 ・運動に親しみながら健康の保持増進と体力向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール投げは、どの学年も全国平均を下回っている。20mシャトルランや握力については、高学年が全国平均を下回っている。 ・ボールを遠くに投げたり、長い時間走り続けたりする経験が日常的に少ない。特に家庭や、塾での学習の量が多い高学年には、持久力や握力の低下が顕著にみられる。 ・個人の気持ちややりたいことのみが優先されてしまい、お互いに高め合える集団になっていない場面がある。勝ち負けを受け入れる態度も育っていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みにスポンジボールでの遊びを開放し、ボール投げの経験を増やすようにする。(投力) ・持久走カードや縄跳びカードを配布し、休み時間に挑戦できるようにする。また、学校全体で長縄の回数を高め合う取り組みを行う。(持久力) ・授業の帯の時間で、キャッチボールや、握力アップ体操、短縄、持久走、柔軟等を実施することでそれぞれの体力の向上を図る。 ・運動の楽しさを実感できる場の設定や教材を工夫したり、スモールステップで授業を進めたりしながら、基礎的な動きを身に付けるようにする。 ・一斉指導だけでなく、ICTを活用し、自分の能力にあった試技や、技ポイントを動画等で視聴することができる環境を整えることによって、個別最適な学びができるようにする。

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・会話に必要な語彙や表現の定着。 ・相手意識をもって伝え合おうとする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを表現することを大事にしながら、学習した表現を活用し、相手に伝わる語彙を選んで伝えること。 ・伝えたい表現を選び、メモやノートを見ないで自分の言葉にして表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで学習することを習慣化し、友達と確認したり、繰り返し練習したりする中で、確実な定着を図る。 ・45分の中で、どの子もしっかりと発話を繰り返させ、基本の表現を定着させ、自分の思いを表現させる。 ・相手意識を常にもてるように声掛けをし、難しい表現ではなく、誰にでも伝わる表現を工夫し、ジェスチャーなども活用しながら伝えられるようにする。 ・NTと二人体制で指導できる強みを生かし、個々の状況を把握しながら適切に助言する。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の精神をもち、本年度の価値項目「規則の尊重」の部分の規則を守ることや規則を守ることの意味についての考えを深める力。 ・多様な考えに触れ、それぞれの考えを深め合う力 ・学んだ価値項目を実践していこうとする道徳的実践力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えに触れ、深め合う前に自己の考えをもつこと。 ・登場人物に自己投影させ、心の葛藤やその心情にじっくりと浸らせたうえで、価値項目について考えさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業では、導入を発達段階に応じて工夫し、教材分やその価値項目に興味関心をもたせる。 ・補助発問を工夫するなどして、多様な考えを取り入れ、思考を深めるきっかけをつくる。 ・道徳の授業をきっかけとして、学年の実態に応じてめあてを立て、振り返る機会を設けたり、掲示物を通して常に意識させ振り返る時間を設けたりするなど、学校生活全体を通して道徳的実践力をみに付けさせていく。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活をよりよいものにするために、進んで話し合い、合意形成していくことができる。 ・集団の中で、人間関係をよりよいものへと形成していくことができる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いだけにこだわり、他者の意見を受け入れたり、尊重したりすること。 ・話し合いによって課題を解決できた経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会における児童自らが意欲的に話し合おうとする議題のもたせ方・話し合いのルールを明確に提示する。そのルールも話し合いを経験していく中で、児童自らが改善していく。自分の思いだけにこだわるのではなく、多様な考えを尊重しながら合意形成に至る話し合いの仕方を身に付けることができるように、自分たちで解決する体験をさせたり、全体について考えることができるような助言したりする。 ・多様な考えをもつ他者と集団生活をしていくうえで必要な資質能力を、学校生活全体を通して、その都度指導したり、話し合いをしたりして、よりよい人間関係を構築していくことができるようにしていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	身近な地域や生活の問題から問題を見だし、自ら課題を立てる、情報を集める、整理・分析する、まとめ・表現する探究的な学習の過程において発揮される力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が身近なものでなく、学習したことが活動に生かせないことがある。 ・学習の調べる、発表するなどの形式的な学び方に陥りがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことが身近な生活に生かせるような課題を見つけられるようにするために、課題を引き出すように問いかける。 ・考えるための技法を使い、考える方法を具体的に示す。 ・話し合い方や進め方を提示して、身に付けるべきことも明示的に示す。